

令和 9 年度予算編成方針

令和 8 年 1 0 月 2 日

総務部長 柴田武巳

先に示された市長メッセージ「令和 9 年度当初予算編成のスタートにあたって」を踏まえ、第 5 次古賀市総合計画基本構想の実現に向けて、予算編成に取り組んでいただきますようお願いいたします。

また、令和 9 年度予算については、中東情勢の緊迫化や物価高騰による先行きの不透明な状況を踏まえ、昨年度に引き続き積み上げ方式での予算編成を行い、全件査定を実施します。

1 国の動向

政府は、「経済財政運営と改革の基本方針 2026」いわゆる骨太の方針において、「マクロ経済運営の基本的な考え方」「日本の成長力強化と安全・安心の確保」「責任ある積極財政に基づく中長期経済財政計画」「当面の経済財政運営と令和 9 年度予算編成に向けた考え方」を示しました。この方針では、令和 9 年度を「責任ある積極財政」元年と位置付け、強い経済の実現を目指しています。

また、『令和 9 年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について』（令和 8 年 7 月 3 0 日閣議了解）では、危機管理投資・成長投資をはじめ、国内投資を通じた潜在成長率の引上げにつながる施策を予見可能性を持って実施できるよう、通常歳出とは別に、『「強く豊かな日本」投資枠』を創設。要求・要望は賃金や調達価格の上昇を踏まえて行い、予算編成過程において、令和 8 年度予算から実現した「経済・物価動向等の的確な反映」を実現。補正予算依存から脱却し恒常的な施策を当初予算に計上するため、適切に要求・要望。歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、予算の中身を大胆に重点化。補助金・基金の自己点検結果を要求・要望に反映し、予算編成過程において精査。」とされ今後の動向を注視していく必要があります。

2 令和 7 年度決算状況及び今後の見通し

令和 7 年度の一般会計決算は、前年度と比較して歳入が約 35 億円増加し 325 億 6, 000 万円、歳出が約 38 億円増加し 307 億 7, 000 万円となり、実質収支は 14 億 5, 000 万円の

黒字となりました。

財政運営の弾力性を示す経常収支比率は、前年度から 5.4 ポイント悪化し 96.1%となりました。また、財政力を示す財政力指数は 0.003 ポイント減少し 0.663 となっています。令和 6 年度と比較すると、財政の硬直化が進みつつある状況です。

中期財政見通しからも分かるように、扶助費や補助費等の義務的経費、さらには投資的経費の増加が見込まれており、市債残高は増加する一方で基金残高は減少していく傾向にあります。こうした状況から、今後の財政状況はより厳しくなることが予想されます。

このような財政状況のもと、市民の皆様の生活を支える重要施策を着実に推進していくためには、さらなる財源確保に努めるとともに、事務事業の見直しによる歳出の抑制を図っていく必要があります。限られた財源を効率的に配分しながら、行政サービスの質を維持しつつ、健全な財政運営を推進してまいります。

3 令和 9 年度予算編成のポイント

令和 9 年度の予算編成については、積み上げ方式による予算編成とし、全件査定を実施します。

- 第 5 次古賀市総合計画基本構想の実現に結び付く事業であること
- 市民要望並びに議会及び監査委員からの指摘事項について精査すること
- デジタル技術や民間のもつ豊富なノウハウの活用により、市民サービスの向上に努めること
- 現在のニーズに合致しているか検証を行うこと
- 事業効果の検証を行い効果が小さい事業については見直しや廃止を検討すること
- 新たな財源がないか広い視野をもって情報収集に努めること
- ライフサイクルコスト（LCC）を踏まえた長期的な視点にたって事業を構築すること

4 その他

予算編成にあたり、新規事業および市長メッセージ関連事業に加え、既存事業についても部内査定を実施してください。あわせて、部内統括および調整委員におかれては、部内調整を行うとともに、部長の補佐をお願いいたします。